

# バイオDBを連携

## 大阪が 高速検索可能に グリッド技術

大阪大学大学院情報科学部は十三日、同サ  
イバーメディアセンタ  
ー、同蛋白質研究所など  
と、ゲノム創薬に不可欠  
な日米欧の十一の異なる  
データベース(DB)を  
単一のDBのように利用

することができると発表。バイオ  
データグリッド技術を開  
発したと発表した。薬  
物候補となる化合物の高  
速探索を可能にするもの  
で、一部の製薬企業への  
無償公開を始めるほか、  
来年一月にも新技術を用  
いたサービスを行うNPO  
(民間非営利法人)を  
設立する。

今回のデータグリッド  
技術は「医学」「生命科  
学」「薬学・化学」分野  
を代表する日米欧の代表  
的な十一のDBを、文部  
科学省の研究開発委託事  
業として阪大を中心に発  
足した「バイオグリッド  
・プロジェクト」内の専  
用線で接続。それぞれ異  
分野のDBのために同じ  
分子でも名称や表現方法  
が異なるが、そのつな  
ぎ役として「メタデー  
タ」と呼ばれるDBを扱  
うDBの概念を導入する  
ことにより、利用者は各  
DBの所在を意識するこ  
となく、あたかもひとつ  
のDBのように効率的な  
検索を実現した。

この新技術を利用すれ  
ば、ネットワーク上に分  
散した十一のDBの連携  
検索が可能となり、「一  
概には言えないが、数週  
間必要だった作業が数分  
でできる」(松田秀雄・  
大阪大学大学院情報科学  
部研究科バイオ情報工学専  
攻教授)としている。

十六日から米国アリゾ  
ナ州で開催される世界最  
大のスーパーコンピュー  
ターの国際会議「Super  
computing  
2003」で発表する。

また、プロジェクト内の  
「創薬研究会」に参画す  
る製薬企業に公開するこ  
とも、同技術のサービ  
スを行うNPOの設立認  
可を申請中という。